

質問への回答

◎歌唱指導 方法・こつ

① 声が小さい

声が小さいことは1番よくないことだと思う。人との比較ではなくて、自分の中で出る1番大きな声を目指させたい。

まずは、いい声でなくても、音の高さが合わなくてもよいのでしっかりと声が出ることを目指させる。

【小さい声の原因として考えられること】

- ・ 恥ずかしい、自信がない ・ 技能的に大きい声の出し方が分からない。
- ・ 恥ずかしい場合、クラスの雰囲気、周りの雰囲気が前向きな空気になるように、心がける。仲間の中で間違っても大丈夫と思える状況を作り出す。
- ・ 大きい声にしたいのにできないときは、息の流れを作らせる。できるだけ太い息をおなかの底から出せるようにトレーニングし、その息の流れに乗せて声を出すようにする。地声でも裏声でも行き漏れ出も気にしないようにする。

② 怒鳴り声

声の響きはどうか？ときれいな声を目指させる問いかけをする。よい声きれいな声のイメージがないと、ただ声を出せばよいという感覚になってしまいます。範唱してみたり、CDを聞かせたりしながら、声のイメージをもたせる。その後、発生に関する技能的なことを指導する。息の流れ、頭声・胸声、口形、喉の奥の開閉など。「口は縦に開けるよ」「ミッキーになってみよう」「頭のとっぺんから声を出してみるよ」こんな感じでね……。など。地声のひどいときは、「声に空気を混ぜてみよう」と問いかけてみる。地声を無理に裏声にしてしまうと、蚊の泣くような声になってしまうときがあるので（特に低い声は）地声のまま空気混ぜて柔らかい声にしていくようにしてもよいと思う。

③ 音痴（音が聞き取れない・音程がずれる）

自分の音がずれていることが分かる生徒には、どこでどうずれるのかなぜなのかを考えさせ、具体的な策を与える。

音域の狭い生徒に対しては、その生徒の音域を教員が知り、出ないところは無理に出さなくてもよいことにする。

終始ずれてしまう生徒に対しては、根気強く一人レッスンをする。音域の低かったり狭かったりする場合が多いので出しやすい音を探してあげ、そこから音をはめることを根気よくやる。目立たない場合で歌うことの好きな子には最初はあまり無理に矯正しないようにする。

④ 口が開かない

口の前が開いていなくても中が開いていていい響きであれば無理に開けさせない。口を開けないことよりも、言葉がはっきりしないことが問題となる可能性が大きいので、言葉を意識させることで、口が開いてくる場合もあると思う。

⑤ かすれ声

息漏れの声はおなかからしっかり息を吐くことを意識させる。息の的が大きくなっている場合が多いので、声の方向性をはっきりさせる。高い声を思いっきり出させる。そのイメージでみんな歌うようにする。本当にかすれている声は病院へ行くようにいう。意外とポリープができていくことがある。

⑥ 発声の基礎

おなかからの息の流れをしっかりつくる。声のあて場所（響きをあてる場所）を示す。「喉の奥をあける」などの表現では得意男子は、喉に力が入ったり、声が奥に引っ込んだりすることがあるので慎重に使うようにする。

⑦ 頭声を維持して声量を上げる

思いっきり高い声をおなかの底から声にするようにする。高い声は息漏れがしにくいので、高い声でトレーニングし、そのまま徐々に低い音にしていく。

⑧ アルトパートの地声

②に記入

⑨ 気持ちの込めさせ方

歌詞の分析をさせる。その中で大切な単語や文を考えさせる。その音やフレーズを意識させて歌わせるようにする。

⑩ 歌唱テストの方法

歌唱テストの目的やそれまでの授業の内容にあった方法を考える。

「赤とんぼ」など短い曲ならばアカペラで一人ずつ行う。正しい音程やリズムだけでなく、ふさわしいテンポ感やフレーズ感を見取ることまでできる。

合唱の授業では、時間的に一人ずつ行うことは難しい。各パート一人ずつの重唱で行ったり、同パート二人で行ったりする。これも評価の観点によって方法を選択していく。みんながテストを鑑賞するかについてもそれまでの活動の内容について決める。完成度の高い状況まで至っていれば、鑑賞させる。他の生徒の鑑賞に堪えうるもの、また、生徒の気持ちもどんな状況でも歌えるということまで心技ともに育った場合は鑑賞させて行う。そこまでではない場合は他の生徒は課題をやり、聞こえてはくるがという状況でやる。

⑪ 男声パートで譜面より1オクターブ低く歌う

音が合っていたら無理には矯正しない。

⑫ 特別支援級での歌唱指導

基本的に通常の学校と同じである。自閉の生徒などはなかなか響きのある声になりにくい特徴があるが、範唱をまねさせることにより少し改善させることができる。

③のように音の合わない生徒もよく見られるが、基本的にはそこにはあまりこだわらずに気持ちよく歌うことやその曲に込められた思いを知り歌うこと、自分の気持ちを込めて歌うこと、いい声で歌うことなどを大切に指導していく。